

特集：新しいエイズ対策の展望

第二部：地域における先駆的エイズ対策の取り組み

沖縄県の積極的な検査強化

糸数公

沖縄県福祉保健部健康増進課結核感染症班

Strengthen the Laboratory, System of HIV in Okinawa Prefecture

Toru ITOKAZU

Tuberculosis and Infectious Diseases Group, Health Promotion Section, Okinawa Prefecture

抄録

沖縄県は平成18年度より2年間、厚生労働省よりエイズ対策における重点都道府県に指定されたが、県ではそれ以前より HIV 感染者・AIDS 患者の数が多いことを認識し、保健所を中心にしてエイズに関する普及啓発の取り組み、検査体制の強化を図ってきた。その結果、平成18年度は保健所における HIV 抗体検査数が2547件となり人口当たり全国1位という形で現れた。他の自治体と比べて検査数が多い要因として（1）各保健所における抗体検査や相談が平日はほぼ毎日可能であること（2）平成17年度より即日検査を全保健所で導入したこと（3）感染者の増加が著しいため県民の関心が高いことなどが挙げられる。検査数が増えた結果、抗体陽性者に占める AIDS 患者の割合、すなわち「いきなりエイズ」の割合は低下し、HIV 感染の段階での発見される者が増加している。これからも県民全体への検査強化の取り組みを継続するとともに、増加する HIV 感染者・AIDS 患者の治療の受け皿となる医療体制の整備を図っていくことが課題である。

キーワード： 重点都道府県指定、保健所の検査体制強化、即日検査、受検者のニーズ、いきなりエイズ

Abstract

Because the number of HIV/AIDS patients is increasing remarkably, Okinawa prefecture has been designated as an emphatic prefecture about HIV/AIDS by MLHW since 2006. We already knew about this problem so public health centers took some measures that included the enlightenment about HIV and strengthen the laboratory system. As the result of these implementations, we achieved the highest rate of having a HIV-titer examination. We suppose some factors contribute increasing examination such as belows, (1) people can take exam through whole week at public health center, (2) rapid examination system was introduced since 2005, (3) people living in Okinawa may have an interest about HIV/AIDS.

Keywords: designated as an emphatic prefecture, strengthen the laboratory system in Health Centers, rapid examination system, needs assessment of examinee, people with AIDS when examined

報告数と検査数の推移

沖縄県は平成18年度より2年間、エイズ対策における重点都道府県に指定された。平成14年から平成16年にかけての HIV 感染者・AIDS 患者の報告数が人口10万人あたり0.806と全国平均の0.799よりも高い水準で推移したた

めである。県では、この指定を受ける以前から HIV 感染者・AIDS 患者の数が多いことを認識していた（図1）。報告数は1999年頃から増え始め、2003年以降は毎年10人を越えていたため、県内6保健所を中心にしてエイズに関する普及啓発の取り組みを行ってきた。その結果、保健所における HIV 抗体検査数は2003年以降年々増加し、

〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2

1-2-2 Izumizaki, Naha-shi, Okinawa-ken, 900-8570, Japan.

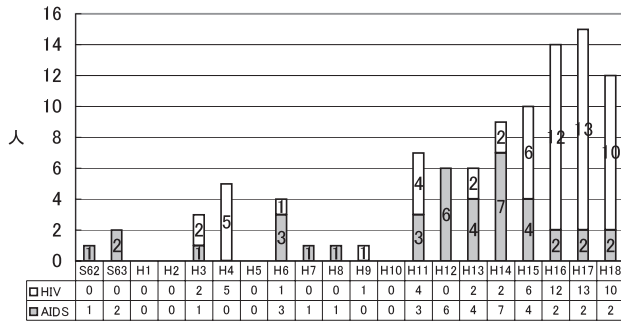


図1 HIV・AIDS 届出状況（沖縄県）

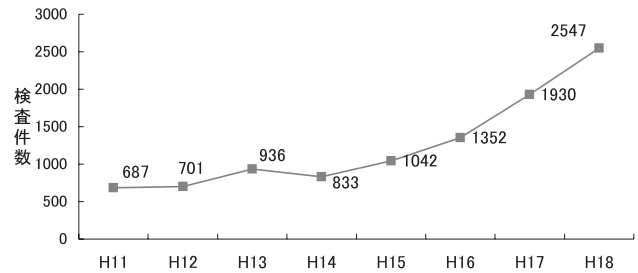


図2 保健所における HIV 抗体検査数の推移（沖縄県）

あらかじめ各保健所にお電話でお問い合わせ下さい		月			火			水			木			金			受付時間
		朝	昼	夜	朝	昼	夜	朝	昼	夜	朝	昼	夜	朝	昼	夜	
北部福祉保健所 0980-52-5219	通常	○	○		○	○		○	○					○	○		通常) 9:00 ~ 11:30/13:00 ~ 16:00 即日) 9:00 ~ 11:30/13:00 ~ 15:00
	即日										○	○					
中部福祉保健所 098-938-9701	通常	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		通常) 9:00 ~ 11:00/13:00 ~ 15:00 即日) 9:00 ~ 10:15/13:00 ~ 15:00 ★夜間は第3水曜のみ 17:30 ~ 20:00
	即日				○	○		○	○	☆							
中央保健所 098-854-1005	通常		○												○		通常) /13:00 ~ 15:00 即日) 9:00 ~ 11:30/13:00 ~ 15:00 ★夜間は第1水曜のみ 17:30 ~ 20:00
	即日	○						○	○	☆				○			
南部福祉保健所 098-889-6591	通常	○	○		○						○			○	○		通常) 9:00 ~ 11:00/13:00 ~ 16:00 即日) 9:00 ~ 11:00/13:00 ~ 16:00
	即日				○			○	○		○						
宮古福祉保健所 0980-72-2420	通常																即日) 9:00 ~ 11:00/13:00 ~ 15:00
	即日	○	○		○	○		○	○		○	○		○	○		
八重山福祉保健所 0980-82-2340	通常	○	○					○	○					○	○		通常) 9:00 ~ 11:00/13:00 ~ 15:00 即日) 9:00 ~ 11:00/13:00 ~ 15:00
	即日				○	○					○	○					

図3 エイズ検査カレンダー in 沖縄

2006年に2547人に達した。人口あたり検査率は0.186%となり、東京都（0.185%）や大阪府（0.159%）を抑えて全国1位となった（図2）。本稿では、沖縄県における抗体検査数増加に関する取り組みの現状と課題を紹介する。

保健所における相談及び検査体制

現在保健所におけるエイズ検査は平成5年以降、無料匿名で行われている。平成19年6月現在の検査体制は、全6保健所においてウィークデーほぼ毎日検査が実施されており、各保健所では週に1回以上即日検査が行われている。また平成19年度からは夜間検査も2つの保健所でそれぞれ月1回実施されている。なお、即日検査に関しては、なるべく近接する保健所間で曜日が重ならないように調整している（図3）。

スタッフの体制としては、各保健所には感染症担当（事務）と保健師1名がペアになって、エイズの相談や検査に対応している。検査結果は原則として医師が面接して受検者に伝えるが、県内の6保健所すべてに医師が複数配置されているため、対応が可能である。

即日検査導入の効果

平成17年度より全保健所で週1回（宮古は毎日）即日

検査が導入された。さらに中部・中央・南部保健所においては、平成18年度より一般健康診断業務の廃止に伴って即日検査を週に2回に拡大し、検査体制を強化した。即日検査では、検査を受けてから約2時間後には結果を知ることができ、受検者の利便性は向上し、その効果は検査件数の伸びに反映された。平成17年は保健所における抗体検査総数は1930件と前年に比べ1.4倍に伸びたが、約46%にあたる888件が即日検査を利用した。平成18年は検査総数2547件で、そのうちの1653件（65%）が即日検査を利用した。このように即日検査受検者が全体の半数を越えており、検査全体数の増加に大きく寄与している。

沖縄県における検査強化活動

県では毎年の世界エイズデーに関連して啓発イベントを実施している。若い世代をターゲットにしてミュージシャンを活用し、地元のFM局とも連携してPR活動を行っている。各保健所では、それぞれの地域エイズ対策連絡会議で地域の関係者（医療、教育、行政、商工会など）にエイズの現状について報告し、啓発への協力をお願いしている。これらの県民全体に向けてのキャンペーンでは、HIV／エイズを他人事意識でとらえないようにすることや、パートナーにも検査を勧めること、感染予防にはコン

ドームが有効であることなどを伝えている。これらの活動は他の自治体で行われているものと比べて特段変わりはないと推察されるが、潜在的な感染者が多いためか受検者数が増えると報告者数も増え、それによって、エイズに関する県民の関心も高まり、受検行動に結びついていると思われる。

受検者に対するニーズ調査

受検者に対する調査もいくつかの保健所で適宜行われている。その結果の一部を紹介すると、検査を受検する人は年齢では20代が最多、次いで30代が多く、男女比は男性がやや多かった。インターネットや友人を通じて抗体検査の情報を入手している。また地元（管轄保健所内）の人は全受検者の58%で、平日の検査を受けるために仕事等を休んで時間を作った人も56%いた。そしてやはり即日検査だから受けたという理由も多かった。男性同性愛者の受検者を対象にした調査では、保健所で受けにくい理由として、プライバシーへの配慮や検査が受けられる日時についての不便さが挙げられた。このように受検者に対するニーズ調査を行うことにより、各保健所が地域の状況に応じて受けやすい環境づくりに努めている。

「いきなりエイズ」の割合が減少した

最近、抗体陽性が判明した時点ですでに AIDS を発症している例を「いきなりエイズ」と呼ぶことが多い。いきなりエイズの割合を AIDS 患者/(HIV 感染者 + AIDS 患者) という式で計算してみると、沖縄県では平成15年以前は58.9%であったが、検査数が増加とともに HIV 感染者の段階で報告される例が増加し、平成16年～平成18年の3年間では14.6%にまで減少した（図4）。いきなりエイズで見つかることは、本人の予後だけでなくパートナー

への感染拡大も危惧されるだけに、その割合が減少しているということは、検査数増加の影響として評価することができるであろう。特に、この3年間は抗体検査で陽性になったもののほとんどが20～30代男性の男性同性愛者であることから、個別施策層からの受検者も増加しているものと推察される。

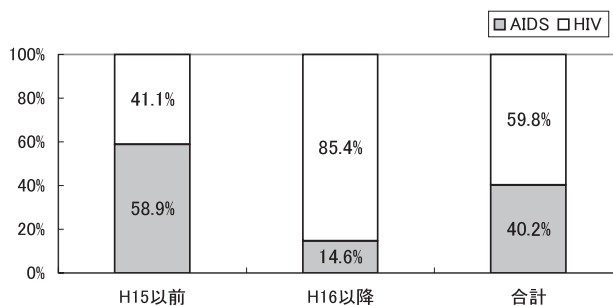


図4 HIV と AIDS の占める割合の推移（沖縄県）

まとめ

以上述べたように、沖縄県においては保健所を中心とした検査体制の整備を強化し、主に県民全体に向けた啓発活動により、抗体検査数が増加を続けている。その傾向は平成19年度に入っても変わらない。県内では無防備な性行動によって感染している者が存在すると思われるので、今後も受検者数の増加により HIV 感染者の報告が増加し、その情報により県民が保健所で検査を受けるという受検者増加のサイクルが続くことが想定される。県としては、検査数を全体的に増加させ、いきなりエイズの割合を減らすことを目標にしつつ、エイズ治療中核拠点病院を中心とした医療体制を整備にも努めていきたい。